

清水 滝

<今回>266回目 2019年9月27日(金)15時~18時 602号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p86 いわゆる魏晋鏡と上代音韻

<前回>265回目(19-9-9) 出席者 7名

資料(19-09-09-1)前回のまとめ(清水)

-2)前5~4世紀にさかのぼった弥生の鉄(榛葉)

A 報告 台風15号の影響はすごかった。まともに東京湾の最奥まですすみ、茨城沖に抜けていった。そのため、東側の房総半島の風害は深刻である。会員のメンバーも鉄道は午後には復旧していたが、バスが道路混雑のため通じていなくて参加をあきらめた方がおられた。鎌倉大墨氏宅は停電で3日目まで復旧にかかったそうです。泉区の知り合いの家では北側からの強風で屋根が飛び布団などが全部濡れて大変だったそうです。

B 資料 -2)、弥生の鉄。今度佐倉の国立歴史民俗博物館展示をC14年代決定法で整理しなおしてしているという事なので、有志による見学を検討している。発表された当初弥生鉄器が発見されているという史料事実と矛盾するという事で議論がおこったが、それは出土経過が不鮮明なので棚上げして議論(春成秀彌)するとして佐倉のメンバーが成果を公表していった、経緯があると承知していた。これに対する近年のまとめである。従来のBC300年からの弥生前期は水田稲作と金属器の普及が同時に始まったとされていたが、水田稲作はBC1000年にさかのぼり、木器や石器の農具で開始された。鉄器は中国大陸BC4世紀ころ燕の地で盛行し同時に半島を経て、列島(北部九州)に伝搬してきたという。

懇親会7名 津多屋15886円(2000・7) -1886円

C 読書 p83「郊迎」の地より

- 1) 博多湾岸という邪馬壹国と伊都国は一大率の存在する要塞の地、中国の郡使(帯方郡・楽浪郡)が一旦ここに車馬を駐めるべき地、都の隣接郊迎の地である。(邪馬台国が近畿ならば伊都国の郊迎の地の機能はおかしくなる)(車馬は中国側か倭国側か、どちらが用意したものか、馬牛なしとの適合性?)
- 2) 中国史書の郊迎の地の例として④から⑤まで5例上げている。その中に郊迎30里(戦国策)長里で13.5km、短里だと2,4km。)の例がある。
- 3) 郊外へ出て迎えるの意味。三國志も劉備玄德が成都の劉璋に迎えられる場面に成都360里(28.8km)の場所で劉備の将兵たちをもてなしたとある。吉川英治の三國志演義にはこの描写はない。距離の描写はたくさんあるが。
- 4) 単に郊迎の地ではなく、神を祀った場所でもあった。郊祀、天子の重要な祭天の地ではなかったか。糸島半島の平原、三雲、井原、などの遺跡群の存在を指摘されている

次回日程 19-10-7(月) 16時から18時 601会議室

-10月25(金) 15時から18時 601会議室

-11-11(月)16時から18時 601会議室

-11-25(金) 15時から18時 1503号室